

Craft, Fabrication and Sustainabilityプロジェクト

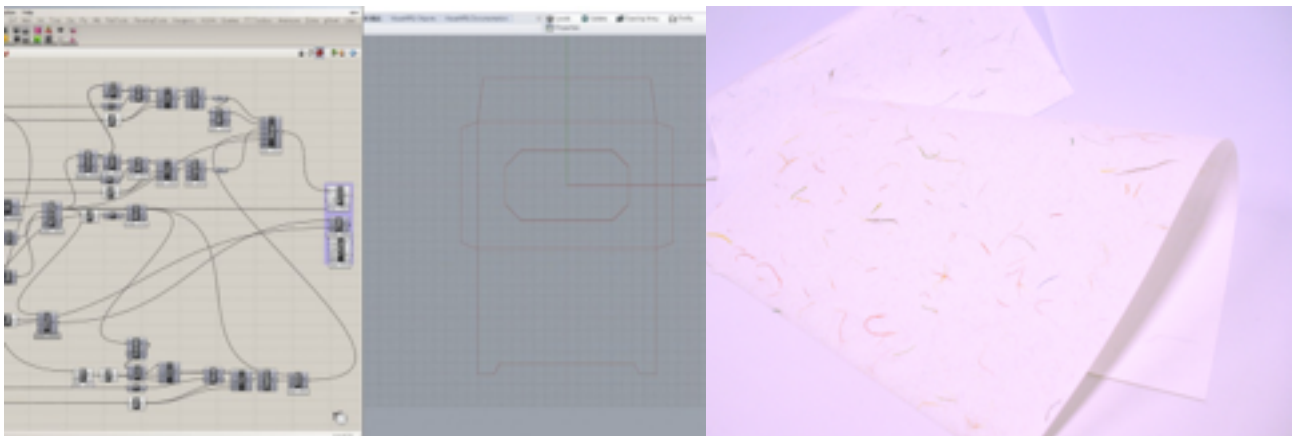
概要

岐阜県立森林文化アカデミー、株式会社TABと連携し、それぞれの持つスキルやノウハウ、手法を共有し、手仕事とデジタルファブリケーションを組み合わせた持続可能なスモールビジネスのためのプラットフォームを構築につなげられるよう、。

成果

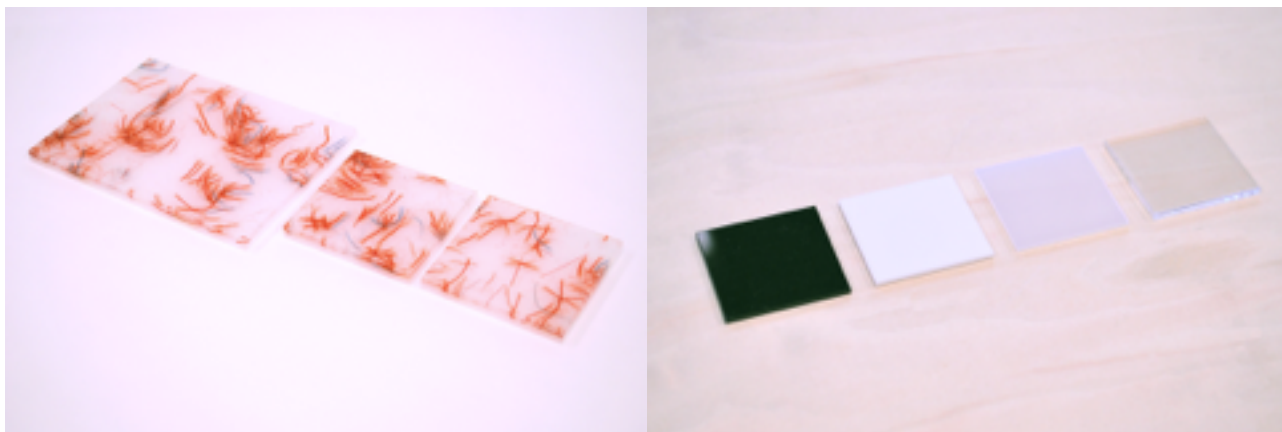
IAMAS OPEN HOUSE 2015でのワークショップ

7月25日（土）、26日（日）に本学において開催されたIAMAS OPEN HOUSEにおいて、三星毛糸株式会社と株式会社TABのコラボレーションによるアップサイクルブランド「mikketa」の素材「mikketa和紙」を使ったワークショップを行った。ワークショップでは、サイズや角の処理などを可変させるツールを使い、コンピューティショナルデザインの考え方を理解しながらオリジナルの形状の封筒の展開図をつくり、レーザー加工機で和紙を加工して封筒を制作した。



Maker Faire Tokyo 2015でのワークショップ

8月1日および2日に東京で開催されたメイカームーブメントの世界的な祭典「Maker Faire Tokyo 2015」においてワークショップ「新素材mikketaアクリルでつくろう！」を実施した。このワークショップにおいては、三星毛糸株式会社とIAMAS卒業生が活躍する株式会社TABのコラボレーションによるアップサイクルブランド「mikketa」の中で生まれた新素材「mikketaアクリル」を活用してオリジナルのプロダクトをつくることに取り組んだ。mikketaアクリルは、製造過程で見過ごされていた余り糸を封入した1枚1枚異なる表情を持つ素材で、この素材で何をつくるかを考えるところから始め、レーザー加工機を用いて製作するところまでを行った。



第4回展開図武道会

このイベントは、統一した制約条件のもとでスツールを製作し、プロダクトとしての完成度を競うことを通じてデジタルファブリケーションの可能性を探求することを目的としたコンテストで、10月17日および18日に岐阜県飛騨市において開催した。



我々の活動に関連の深い木工×FABをテーマとする「ヒダクマ秋祭り2015」を主催するヒダクマより、デジタルファブリケーションで出来ることや、それらがもたらす可能性を認知してもらう機会としてイベントを共同開催したいという要望があり、取り組むこととした。

コンテストのルールは、3つの狙いのもと設計した。まず、意匠に加えて強度を考え設計する必要が生じるスツールをモチーフにすることで、ものづくりの楽しさである試行錯誤を体験してもらうようにした。そして、すべての作品を展覧会で展示することで、多くの来場者に見てもらえるようにするとともに、コンテストの参加者同士がお互いに経験やノウハウを共有し、コミュニティを形成できるようにした。くわえて、デジタル工作機器があれば作品を再現できるデータ「展開図」をオンラインで共有することで、派生物が生まれやすくすると同時に、この活動が世界中に広がるようにした。

レーザー加工機などのデジタル工作機械と共に製作したスツールを見もらうことで、デジタルファブリケーションの面白さを提示できた。また、参加者と来場者、参加者同士の意見交換をする場として機能した。過去3回は短期間のイベント会場での開催だったのに対して、第4回は今後も継続して活動する拠点での開催。今回のイベントをきっかけに飛騨でどんな動きが起きていくのかについて引き続き注目し、連携していきたい。